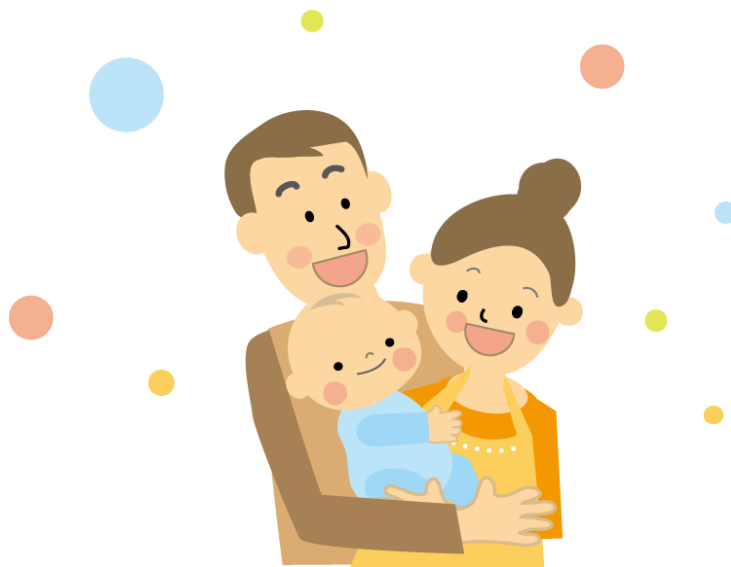




市民と市長の対話集会

第87回

タウンミーティング記録集



平成27年1月22日(木曜日)

会場 子育て総合支援センター
「ころころの森」

時間 午前10時半~12時半

協力：ひがしむらやま子育て応援ネット・ころころの森

東村山市

○開催内容

平成27年1月22日（木）午前10時半、子育て総合支援センター「ころころの森」におきまして「タウンミーティング」を開催し、約50名の方にご参加いただきました。当日は、白梅学園大学の汐見学長にファシリテーターをお務めいただき、参加者の皆様からご意見をうかがいました。

また、事前に「ころころの森」内や子育てひろばで東村山市のいいところ・いまいちなところについて募集したご意見やご質問を『壁面ツイッター』というかたちで掲示し、同感する意見にシールを貼ってもらい、ランキングにして発表いたしました。

なお、開催にあたっては市内で子育て支援の活動をしている『ひがしむらやま子育て応援ネット』『ころころの森』の皆様にも、壁面ツイッターの実施やランキング集計、当日の実施運営等のご協力をいただきました。ありがとうございました。

●会場アンケート結果（住所地・年齢・性別について）

アンケート用紙は会場入り口で配付し、うち5枚を回収しました。

・アンケート回答者の年齢

20代	1人
30代	2人
40代	1人
60代	1人
合計	5人

・住所地

秋津町	1人
青葉町	1人
恩多町	1人
栄町	1人
廻田町	1人
合計	5人

・性別

男性	1人
女性	4人
合計	5人

○開催情報

●対象 市民の方（在勤・在学の方含む）

●申込み 申込みは不要です。当日、直接会場にお越しください。

（手話通訳・要約筆記が必要な方は、開催日の1週間前までに

FAXまたは電話またはEメールにてご連絡ください）

連絡先：東村山市役所 市民協働課 電話/(393)5111 fax/(393)6846

Eメール/kyodo@m01.city.higashimurayama.tokyo.jp

開催日	会場	時間
平成27年3月14日（土）	萩山公民館	午前10時～正午

タウンミーティング記録（概要）

会場での発言内容は発言要旨を記録し、個人名は伏せさせていただきました。

【市長あいさつ】

皆様、おはようございます。東村山市長の渡部尚です。

今日は、この「ころころの森」をお借りいたしまして、市民の皆さんと私の対話集会、通称「タウンミーティング」を開催させていただきます。タウンミーティングは毎月やっているのですが、子育て真っ最中の若いお父さんやお母さん方は市長に言いたいことがあってもお出かけいただいてまで意見を言うのがなかなか難しいということで、ある意味、出前式に私のほうが「ころころの森」にお伺いして子育て真っ只中でがんばっておられるお父さん・お母さんのお話を生で聞かせていただくということで始めさせていただきます。今回で3回目となります。「そういうことを言ったからといって、どこがどういうふうになったの」というところがあるかと思いますが、今回、皆さんにお配りした資料の中に「市では受け止めたご意見をこんなふうにもちづくりに活かしていますよ」ということを、『ひがしむらやま子育て応援ネット』の方にまとめていただいています。すぐにできているものもあればなかなかできていないものもありますけれども、いただいたご意見は何らかのかたちでこれからのまちづくりや市政に反映をさせていただきたいと考えていますので、ぜひ今日も気軽にご意見をいただければありがたいかな、と思います。

今日は、いつも子育て相談をさせていただいています白梅学園大学の汐見学長にもタウンミーティングに出席いただいて「若いお母さん方が行政等に求めていることはこういうことなのか」ということを聞いていただきながら、先生からも良いアドバイスがいただければと考えておりますので、どうか先生よろしく願いいたします。

今、インフルエンザが流行っているので心配ですね。私は息子が二人いるのですが、もう二十歳を過ぎていまして、昔を思い起こすとこの時期はやはり風邪をひくのをすごく心配して、一人が風邪をひくと必ずもう一人がひいて、結局、妻がひいて私もかかるみたいな。冬場はずっと誰かしら風邪をひいていたようなことを今、思い出しています。

私が初めて市議会議員になった時には、上の子どもは満1歳ぐらいで、下の子はまだ生まれていなかったもので、本当に大変な思いで選挙をやったということで子どもたちや妻に迷惑かけちゃったなというのがあります。できれば、ここに来ていただいているお子さんたちにはこれからも東村山の中で健やかにすくすくと成長していただきたい。そのために我々もこれからいろいろなことをがんばっていきたいなと思っておりますので、今日はよろしく願いします。

【壁面ツイッターの報告】

ファシリテーターに汐見稔幸先生をお迎えし、壁面ツイッターについて発表いたしました。

■これからも東村山市に住み続けたい！

YES 40票 NO 3票

■東村山市のいいところ

- 1位 ころころの森がある！安心して遊べるし
相談もできて助かる。広くてきれい
14票
- 2位 都内で便利なわりに、自然があるところ
13票
- 3位 おはなし会（読み聞かせ）をいろんなところ
でやっている。とても楽しい 11票
- 4位 図書館の布絵本がすばらしい。大切に多く
の人に見てもらいたい。図書館が充実して
いる 10票
- 5位 子どもにやさしいおじいちゃん、おばあち
ゃんが多い。市民のみなさんがやさしい
6票

<その他の意見>

八国山、狭山公園、北山公園、全生園がいい！／
野菜の無人販売がいっぱいある／駅がたくさん
ある／適度に田舎で住みやすい／子どもとの散
歩コース、公園がいくつもある／秋津にころころ
のひろばができてよかった／児童館が多いので
安心して遊ばせられる／小学校の給食が自校式
でありがたい



■東村山市のいまいちなところ

- 1位 歩道環境が悪い（歩道が狭い、ガタガタ、
危ない等） 45票
- 2位 子どもが保育園に入られるか心配
19票
- 3位 子どもが楽しく遊べて、親も安心して遊ば
せられる公園が少ない。公園でボール遊び
ができない 16票
- 4位 一時保育がどこも定員いっぱい、預けた
いときに利用できない 6票
- 4位 中学校に自校式の（あるいは昔の給食セン
ターのような）給食がない 6票

<その他の意見>

北山公園に駐車場がほしい。中央公園の駐車場が
狭い／恩多町に公園が少ない／認可保育園と認
証保育園の差額補助を導入してほしい／産院が
少ない／市の保健師さんがいつも忙しそうで相
談しにくい／児童館は、小学校が休みの時は危な
くて幼児を遊ばせられない／小中学校でいじめ
が多く、荒れていると聞いて心配／東村山駅前が
さみしい。レストランやカフェ、ベンチなどがあ
ればいい。子どもを連れて通れない／授乳室があ
ったりベビーカーで入りやすかったりする、子連
れで行きやすいレストランがほしい／久米川駅
南口のたばこゾーンを撤去してほしい／アカチ
ャンホンボが近くにない

◎ 汐見先生 ◎

皆さん、おはようございます。白梅学園大学の汐見です。よろしくお願いいたします。

今日は大事なタウンミーティングの機会と一緒に参加させていただきます。今日は市民の様々な声の中で、特に子育てに関わる問題を市長にできるだけ具体的に伝えて、市長に答えていただくだけではなく、一緒に考えていただく機会にしたいなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

私が回りますから、皆さんの中で「これはどういうふうにできるのか、市長に考えを聞きたい」ということがありましたら遠慮なく発言をお願いしたいと思います。その前に、今日「ころころの森タウンミーティング」という資料が皆さんのお手元に配られていると思うのですが、ございますか。この「ころころの森」の利用者のお母さん方、お父さん方にしばらくの間『壁面ツイッター』というかたちでいろいろな意見を書いて貼っていただきまして、その結果がまとめられています。大変嬉しいことに、「これからも東村山市に住み続けたい」という質問に対してイエスと答えてくださった方が40票で、ノーという方が3票。これは相当な高い率で東村山市の生活に満足している方がいらっしゃるということがわかり、市長としても大変嬉しい結果だと思います。

「どこがいいか」というところに「ころころの森があるということが大変ありがたい」ということ。それから「適度に自然がある」ということ。実は私、20数年間、品川に住んでいたのですが、どんどんのっぽビル街になってしましまして、のっぽビルができた当時は「すごいな」と思うのですが、人間というのはああいう自然の中に全くないような巨大なものに接していると、興奮するんですね。そのためにだんだん空が狭くなったな、ということだけでなく、それを通過したり見上げているだけでだんだん疲れるようになりました。歳をとってきた面もあるかもしれませんが、「もうのっぽビルはいい加減にして欲しいな」という気持ちになってきて、白梅学園大学に来る少し前に私は国分寺市に引っ越したんですけども、緑がかなりあるんですね。それだけで自分の体がすごく喜んでいるのを感じます。ぱっと見ただけで緑が見えるというのは、本当にありがたいことです。

東村山市はこれからどんどん人口が増えることはあまりないと思うのですが、緑と住宅地というのを上手に共存させるまちになっていって欲しいなと私は思っていて、それが評価されているというのはいいな、と思いました。それから「図書館がすごくいい」という方がいらっしゃって、これも行政の努力が実を結んでいるな、と思いました。

もう一つ、「いまいちなところはここだな」というのが書かれているのですが、最も多かったのが、圧倒的に歩道の環境が悪いというものでした。これは今の市政の責任でもなんでもなくて、ずっと前からこうなんです。私も最初、「国分寺と小平、東村山辺りはなんでこんなに道が狭いんだ」と。これはもともと農地だったところを開発した時に公的な公団住宅等が開発したのではなくて、民間の住宅会社なんかが開発したために、民間が開発すると住宅地を広くしようとしてできるだけ道を狭くしようとするんですね。今では通用しないような幅4m以下の道路がいっぱいあったりして、十分な長期計画が立てられないまま開発が進んだというようなことが背景にあるのだと思います。「じゃあ今から道を広げましょう」とかいうことはなかなか大変で、これをやるには相当なお金と期間が必要になると思うんです。

これに対して、一番票が多かったので、市長にどういうふうにお考えか聞いてみたいと思います。どうですか。

◎ 市長 ◎

いまいちなところの第1位がダントツで「歩道環境が悪い」ということでご意見いただきました。子育て中の若いお父さんやお母さんだけではなく、全ての世代の方が「東村山市の良いところ」としてあげるのが、やはり「安心して安全に歩ける道が少ない」です。先生が今おっしゃったように「歩道がない通りがいっぱいある」「歩道があっても狭い」ということを随分言われています。特に「ころころの森」に来るところは踏切のところの歩道も幅がすごく狭いですし、昨年一昨年も言われましてけれども、歩道も段差があったりしてガタガタしているということなので危ないということです。

いっぺんに全部を良くするということはなかなかできないので、長期的な取組みとしてはこれから東村山駅周辺の西武新宿線が中央線のように高架になります。いよいよ今年から工事が始まってきます。それに併せて駅周辺の道路環境については良くしていこうということを今、考えているのですが、これは10年以上の期間がかかるので、それまでどういうふうに安全対策をするかということのをこれから考えたいと思いますし、今日、具体的に「この道のここが本当に危ない」というところがあれば後ほど聞かせていただいて、当面は現場をあたりながら個々に対応していきたいと思っています。

長期的には今、申し上げた鉄道の連続立体交差事業と併せて、踏切とその周辺の道路の道幅を少し広げさせていただいて、歩道をゆったり取れるようなまちづくりを進めていきたいと考えています。

◎ 汐見先生 ◎

西武線の高架で環境がかなり変わるだろうと。ただ、それはちょっと先の話でお金もかかって高価だから高架と言うんですね(笑)。その間にも子どもが成長しちゃうということで、現在、子育てしているお母さんにとっては大変ありがたいことだけでも、私たちの当面の悩みについて「ここは何とかなりませんか」と。こういう問題は市にお願いして何とかしてもらおうということも大事なんだけれども、市民が自分たちでいろいろアイデアを出して「こうやったらどうでしょうか」とか「私たちだったらこういうふうにやれるから、やってもいいですか」とか、どんどん市民が主体的にやっていかないと、行政が全部やれるわけではないんですね。タウンミーティングっていうのは市民の要望を行政に伝えるんだけど、同時に市民のほうが「私たちはこういうふうにやれるんじゃないのか」ということを皆でわいわいやれる場でもあって欲しいと思います。

【会場でのご意見】

◆交通量の多い道路をスクールゾーンに

東村山高校の西側はスクールゾーンになっているが、反対の東側が恩多辻に抜ける道になっているため交通量が多い。大岱小や五中に通う小中学生が朝方かなり多く通るので、スクールゾーンにできないのか。私自身、5歳と0歳の子どもがいて、車もかなりスピードを出して通っていくのでちょっと怖いと感じるので、スクールゾーンにしていきたい。（恩多町 Wさん）



◎ 汐見先生 ◎

スクールゾーンにするかどうか、というのはどういうふうに決まるんですか。

◎ 市長 ◎

スクールゾーンは最終的には警察の権限になってきますので、ご意向を聞いて現場を確認したいと思います。ただ、スクールゾーンをかけると時間帯によって自分の家から車の出し入れができなくなるとか、不利益を被る方もいらっしゃるわけです。そのためにスクールゾーン等の交通規制をかける場合には、どうしても地域全体の合意形成というのがすごく大事になるかな、と思っています。冒頭、先生にもおっしゃっていただきましたけれども、本当に危険だということになれば、市民の皆さんのご意見を聞きながら、地域全体で「自分たちの生活は一部、不便になるかもしれないけど、やっぱりここは通学時間帯だけでも交通規制をかけたほうがいいんじゃないか」ということになれば警察のほうでも話が割と進むようになるかと思っています。今日お話を聞かせていただいたので、一回、現場とか現地を確認して、また、自治会の皆さん等々、地域の方々からどんな声が上がっているかを把握した上で、市としての対応を考えたいというふうに思っております。

◎ 汐見先生 ◎

そういうところは基本的には警察の権限だそうですので、まず一回、直接、警察に行ってどういう手続きがあるとか、いろいろ聞かれたらどうですか。ただ、警察の方にも「こういう要望があるんだけど」ということで、今、市長におっしゃっていただいたように、スクールゾーンがかかると自由に車の出し入れができないお宅がでてくるので、そういうところは特別に許可をしていただいて例外をつくるとかなんとかできないのかとか、いろいろな交渉をしていかなければいけないと思うんですよね。住民が自らそういうかたちに持っていけるかどうか、ぜひ検討していただきたいということでした。ありがとうございました。

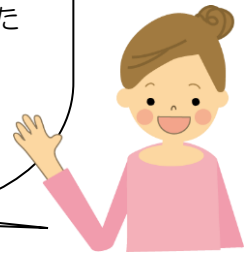
◎ 学務課より ◎

平成24年度に行われた通学路緊急合同点検や毎年行われる通学路危険箇所点検等の要望としては上がっておりません。また、現地も確認させていただきましたが、歩道の確保もできており、市内の幹線道路としての役割も果たしているため、スクールゾーンとして設けることは難しいと考えております。

◆ボール遊びのできる公園を

子どもが小学生になってからずっと「ボールで遊べる公園が欲しい」と言われていて、「道路に飛び出して事故が起こると危ない」とか話合いをしているが、「ボールを使って遊べる公園が欲しい、とお母さん言ってきて」と言われた。「公園によっては近所の方がうるさいとかボールが飛んでくるのが嫌だという思いもあって公園でボールを使えないんじゃないの」と話したが、子どもはしっかりしていて、諏訪町では自治会で体力づくり推進委員会が積極的に働きかけていたり、昨年は東村山市ではバスケットボールの全国大会が開かれたりしていて、東村山市としてもスポーツに関してはすごく推進しているという市報を見た子どもから「こういうことがあるのになんでボールを使って遊べないのか」と言われたので、検討していただきたい。「小さい子が公園で遊んでいる傍でボールが使われるとお母さんや子どもにとってはすごく怖い思いをするよ」という話合いをしたが、やはり小学生になってからは思いっきり体を動かしたい。数人のお母さんからもそういう話が出てきたので、親としてもボールを使って遊ぶ際に必ずマナーを伝えるようにするので、ぜひ検討していただきたい。

(諏訪町 Tさん)



◎ 汐見先生 ◎

今、多くの子ども用の公園には『球技禁止』という立札が出ているんですね。子どもにとっては欲求不満が募ってしまう、というご意見でした。

◎ 市長 ◎

東村山市の「いまいちなところ」でも3位に「子どもが楽しく遊べて、親も安心して遊ばせられる公園が少ない。公園でボール遊びができない」という不満のご意見として16票いただいています。実はころころの森でタウンミーティングをやるたびに毎回同様のご意見をいただいて、なかなか改善ができなくて心苦しく思っています。あと今、中学生ともタウンミーティングをやるようになって、中学生からもそういう声をいただいています。

今、市のほうで管理している公園・緑地等が市内に約150ヶ所あるんですけども、あまり広い公園がないものですから、ボール遊びをすると同じ公園で小さいお子さんが遊んでいたりと、ボールが飛び出して近所の方にご迷惑をおかけしたりするケースがあって、今、市の公園では原則ボール遊びを禁止にさせていただいています。

ただ、比較的広い公園でルール化して近隣の方々との一定の合意形成が取れて、硬球みたいな硬い球だと危険なのですが、例えば何曜日の何時から何時まではゴムボールみたいなものであれば小学生はボール遊びをOKにするというようなルールをつくって、近隣の市民の方にも少し安全管理を見ていただけるような体制が取れば、曜日や時間で公園をうまくシェアしながらボール遊びもできるようにするというようなことをモデル事業として進めていきたいと考えています。

諏訪町の中でそういう公園があるかわかりませんが、ちょっと調べてもしできるようなところがあれば、例えば諏訪町で「いいですよ」と言う方がいればその時間だけ安全管理を見ていただいてボール遊びをするというような枠組みがつかれないかなと今、考えているところなので、もう少し

お時間いただきたいと思います。

あるいは地域の中で「自分たちでこうするから、この公園は小学生だけでもこの曜日のこの時間帯はボール遊びをできるようにして」というような提案をいただけるとすごくありがたいと思っておりますので、少し地域の中でも話し合っていただけると良いかなと思います。よろしくお願いします。

◎ 汐見先生 ◎

ご存じだと思うんですけども、今、法的に児童公園というのはなくなりました。子どものための屋内施設を児童館、屋外施設を児童公園と言うのですが、60年代にそれを造らなければいけないという法律ができたんですけども、1993年に児童公園はなくなりましたね。理由はおわかりだと思うんですけども、子どもが減ってお年寄りが増えてきて、お年寄り公園というのはないんです。だけでも児童公園というのがあるのでそこを活用される。そうすると散歩に来てベンチでおしゃべりしたりしているところに、たくさんのお子さんが来てサッカーや野球をすると危なくてしょうがない。

それから、児童公園と言っても若いお母さんが子どもを連れて遊ぶ場所がだんだんなくなってきて、子どもが道端で遊べなくなってきました。そうすると公園に行って遊ばなければいけないけれども、小さなお子さんがいるところで大きな子どもがわーっと走り回ったりボールを投げたりすると、これもまた危ないということで、結局、児童公園の児童というのは小学生ぐらいを念頭に置いていたんですけども、その子たちが相対的に減ってきていろいろな人が利用するようになったためにこれを止めたんですね。それで今は街区公園という名前になっています。街にある公園という意味なんですね。だから誰が利用しても良いということになっていますので、どうしてもいろいろな利害が入ってきますから、子どもたちがそこでボールを投げたりして迷惑がかかるということをお知らせして止めてもらうということで今は大体『球技禁止』と書いてあるところが圧倒的に多いです。

それからテレビ番組でもやっていましたけれども、近隣のお年寄りの方が「子どもの遊んでいる声がうるさい」ということで役所にずっと訴えていたら、役所が「この公園では子どもたちが声を出して遊んではいけません」という立て看板を出しました。今、あちこちで「声を出してはいけない」という看板がある公園も出てきました。地域のいろいろな事情はわかるけれども、子どもってやっぱり元気に遊んで育つ存在ですから、そこは地域で合意していかないと子どもたちは自分でなかなか言えないものですから、何とかしなきゃいけない。今、おっしゃってくださった「お母さん言ってきて」というお子さんの声がすごく大事だなと思いました。じゃあ公園を大きくしようとか、増やそうとかいうのはそう簡単にできることじゃありませんよね。だから「この公園は何時から何時は子どもたちが球技して良いことにしよう」とかってかたちで合意を作っていくとか、工夫するしかないですね。そういう意味でできたらそういう声の一つにして地域の住民ともいろいろ相談しながら、「ここの公園だったら広いから子どもたちがサッカーをやっても良い」というような工夫をやっていくということを目指したいということですね。

併せて長中期計画で、東村山市内で子どもたちがサッカーをやって良いようなサッカー公園を一つ造っていくとか、野球をやって良いような野球公園を一つ造っていくとか、例えば空き家が増えてくるでしょうから、それを上手に買い取って「ここでそういうことをできるかもしれない」というようなことを私のほうからお願いしておきたいと思っております。

本当に悩ましいことなんですけれども、行政がやれることも限られていますので、そうやって皆で知恵を出し合っていくということですね。どうもありがとうございました。

◎ みどりと公園課より ◎

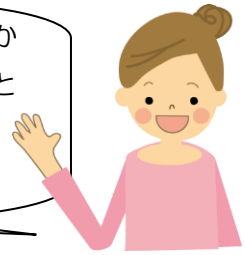
公園でのボール遊びには、近隣にお住まいの方々のご理解、ご協力が不可欠であり、これまでボランティアグループによる公園でのイベントにて、ボール遊びを試行的に実施していただきました。

今後こうした取り組みを通じて、ボール遊びができる環境づくりを進めてまいります。

◆市内にコミュニティカフェを

9か月の子どもを連れてお散歩していると、ママ同士でお茶ができる場所とかそういうカフェみたいなところが少ないのが残念。そういうのを誘致するか、市として空き店舗をそういうふうの開拓するようなマーケティングの企画はあるのでしょうか。

(富士見町 Wさん)



◎ 汐見先生 ◎

ちょっと出かけた時にそんなに大きくなくて良いんだけど、ママ同士がしゃべられるような、お茶が飲めたり簡単なものが食べられたりするようなものがもっとあって欲しいというようなことで、そういうことについての計画とかアイデアというのは市のほうにないですかということですね。

◎ 市長 ◎

今、具体的に計画等があるわけではないんですけども、東村山の場合、市民の皆さんが気軽に集ったり憩える場所が少ないというのはご指摘のとおりかなというふうに思います。これは民間ベースで言うとなかなか商売になりにくいというようなこともあるのだと思うんですが、今さっき先生からご提案いただいた空き家、それから空き店舗等の活用をこれからどう考えていくかということの中では、そういうコミュニティカフェみたいなものを誘致したり、あるいは市民の皆さんがやるということに対して一定の支援みたいなことはこれから考えていく必要はあるんじゃないかというふうに思います。

ただ、空き店舗というのは、実はなかなか活用が難しいんですね。日本の場合、商店というのは商売をやっているスペースと家屋というか住まいが大体一体型で、お店をやめたあともお店だったところが物置代わりになっていて、なかなか第三者に貸せないという事情があるようで、外から見ると空き店舗なんですけど実際には生活用のスペースとして活用されている方が多いので、実は空き店舗の活用というのはなかなか難しいな、というのが私の印象です。

むしろ昨年度、行いました「空き家等実態把握基礎調査」では、「空き家」と推定されている建物が561ありました。これから高齢化の進展に伴ってだんだん空き家が増えることが予測されます。その地域の中で空き家を適正に管理してくれていけばいいのですが、そのまま放置して不完全なカタチですと、やはり防災上や防犯上、あるいはまちの美観上もいろいろな課題があるので、すぐに売るつもりがなければ誰かにお貸しいただく。それもできればお安く貸していただいて、そこをうまく活用して地域のコミュニティスペースにするとか、子育ての小さな集まりの場にするとか、これから東村山市も空き家については計画を立ててその利活用を図っていこうと考えていますので、そういった中で少し検討したいと思います。

あと、高校生や若い方と話をするとよく「うちのまちはスタバもないし、ユニクロもないので何とかして欲しい」と言われるのですが、それは民間の方がうちのまちをどういうふうに評価しているか

というところもあって、東村山駅の東口にコメダという喫茶店が多摩地区では比較的早くきたのですが、そういうお店とも協議して、中心的な市街地のところには少しこじゃれたお店を誘致できるようなことは考えていきたいなと思っています。

◎ 汐見先生 ◎

今、聞いてスタバがないんだ。ユニクロもないんだ、と思ったのですが、逆に「スタバもユニクロもないまち 東村山」というのが売りになるなと思いました。市民が皆で小さなカフェをいっぱいつくっていったって、大きな業者がやっているようなところとは違う味のあるカフェがいっぱいありますよ、というようなまちにできるかなと。

ただ、今、市長がおっしゃってくださいましたけれども、実はこれから日本社会は急速な人口減少が始まります。あと10年経ったら、毎年100万人くらいずつ減っていくと言われてます。

平成20年度の調査によると日本社会には空き家が750万戸あるんだそうです。1年に100万人ペースで減っていきますと10年で1000万人減りますよね。1000万人ということは400~500万戸が空き家になっていく可能性があるんですね。今750万（平成25年度は820万戸）だからあつという間に1000万、1500万戸が空き家になっていく。

私の大学がある小平市は今、空き家対策が非常に大変です。もう息子や娘はどこかに出て行って他に住んでいますよね。親が住んでいた家は40~50年前の家で今から手入れしても住めるわけでもないということで、実際にはなかなか住まないで空き家になっていきます。でも放っておいて管理が悪いと見た目もありますし、誰かが勝手に住んでしまったりというようなことも起こります。格好の皆の^{すみか}住処にされてしまうということもあるので、できたら管理はきちんとしていただきたい。それができなければむしろ更地にしていただきたいというふうになっていくというのがいっぱいになって、これが恐らく行政上の大きな課題になっていきます。だから市民の中で空き家をチェックアップ（調査）して地図の上に旗を立てて「ここをお願いしたら小さなカフェができるんじゃないの」というふうにして、「でも誰が運営する」とかそういうことをちゃんとやっていかないとアイデアだけでは進まないですね。商売というのはなかなか成り立つものではないです。皆が集まって順番に掃除したり、開け閉めもやるということをやっけていかないと、実はなかなかできないですね。その中で「じゃあ私がしばらくやるわ」という人が出てくると小さなお店としてお年寄りの方々がいつもやってくださっていて、ちょっと小銭が入ってくるというようなことになればうまくいったって、そのデザインを誰がやるかということ、武蔵野美術大学とかの学生がいるじゃないですか。うち（白梅学園大学）の学生たちもいます。

韓国のスウォンというまちが芸術家だけを集めてたくさんのアトリエをタダで貸しているんです。ただし、古いまちでシャッター商店街になっているところをまちづくりで新しく作り変えるということをやってくれたらタダで貸してあげるということをしているのですが、そこで芸術家たちがつくったものがものすごく素敵なんです。お金はほとんどかけていないんですが、そこがまた名物になって、観光客が来るようになりました。そういうのが実はあるんです。ここは武蔵野美術大学とかいろいろあるので、そういう学生たちに「素敵なお店を設計して」とかお願いして、その運営は自分たちでやっていかないと、市がそういうことを全部やれるわけではないんです。実際の運営は市民でやるしかないんです。

小平市ではたくさんのコミュニティカフェ・コミュニティレストランをつくっていくということを進めていこうということで、市と提携して『小平市西地区の地域ネットワークづくり』という拠点を

白梅学園大学の中につくってあります。東村山市でもコミュニティカフェネットワークみたいなものを市民でつくって、市と提携しながらそういうのをやっていくとまちづくりとしてはすごく楽しいと思うんですね。そこで地域のお年寄りの方がいろいろお手伝いをされたら孤立した高齢者が減っていくということにもつながりますので、ぜひ、今のアイデアを皆でかたちにしていって欲しいなと思います。

◎ 市長 ◎

今のことで1点だけちょっと補足なんです、富士見公民館の中にカフェがあるのはご存じでしょうか。あそこは障害者の方が運営されているカフェなので、ああいうところをうまく活用させていただいて、皆さんで集って「もう少しこうしたら小さいお子さんをお持ちの人たちも寄りやすくなる」ということがあれば直接言っていただいてもいいし、間接的に我々に言っていただいても結構なので、せっかく富士見町にそういう社会資源があるので、ぜひご活用いただけるとありがたいなというふうに思います。

◎ 汐見先生 ◎

カフェをつくるコツは、ステキであることなんです。でないと来なくなります。これはやっている人たちの集まりで聞いたら、やっぱり「ここがすごい素敵なところだね」というところをつくらないと来なくなる。だから市民としていろいろアイデアを練っていくということが大事ですよ。

「スタバもユニクロもないまち 東村山」これはいいですね。「カフェの数は全国一」とか、ぜひそういうまちをつくって欲しいなと思います。どうもありがとうございました。

◎ 都市マーケティング課より ◎

これからのまちづくりで重要な視点は、他とは違う「差別化」であると考えております。他のまちなまねをするだけでは、財政力のあるまちに勝つことは困難です。東村山市の「ポジション」というものを十分踏まえた上で、市民の皆さんが気軽に立ち寄れる場所が増えていくような取り組みを、行政だけではなく、様々な機関が連携して進めて行く必要があると考えております。

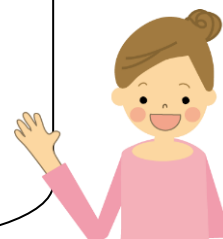
◎ 公民館より ◎

富士見文化センター（公民館、児童館、憩いの家の複合施設）内には「ふれあい喫茶 ふじみ」という喫茶室があります。この喫茶室の中には、どなたでも自由にご利用できる共有スペースも用意しており、お弁当などを持ち込んでの飲食ができます。また、喫茶室のメニューも注文することができます。「ふれあい喫茶コーナー運営委員会」が運営しており、東村山中央公園に来園された方や公民館、児童館、憩いの家を利用された方ばかりでなく、どなたでも利用できるように道路沿いに看板も出しています。

このような喫茶、スペースは、いきいきプラザ1階にもありますし、中央公民館1階にもあります。今後も市民の方、地域の方と行政が連携し、市民の皆さんの憩いの場所を提供できればと思います。

◆保育園の駐車場について

子どもが第三保育園に通っているが、お迎えの時間帯になると車がラッシュになって駐車場がないので皆さん保育園の周辺の道路に路上駐車している。時間貸しのパーキング等もないので道路に順番待ちみたいに並んでしまって、ぎりぎりの時間にお迎えに行くと待つ間に延長の時間に入ってしまったたりするので、駐車場をつくる計画とか四中が近くにあるのでその駐車場を貸してもらうようにするという事は可能でしょうか。 (廻田町 Kさん)



◎ 市長 ◎

第三保育園には駐車場が全くないんですって。

保育園の前のところに数台はある。

(会場より)



◎ 市長 ◎

どこの保育園も数台程度なんでしょうね。難しい課題ですね。学校に停めるといのは学校のほうもなかなか OK してくれないかなというふうに思います。近くにコインパーキングもないし、私もすぐにはちょっと知恵が出ないので、皆さんのほうで何か良い知恵があったら教えていただけるとありがたいのですが・・・。

飲食店とかコンビニが近くにある。

(会場より)



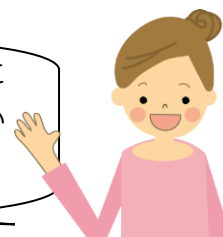
◎ 市長 ◎

飲食店とかコンビニに頼んで一時的に止めさせてもらうようお願いをさせてもらうと。そこはちょっと検討させてください。働きかけられるかどうか考えたいと思います。

お店の駐車場が満杯でなければお店の人も「ちょっとの間だったら良い」と言ってくれるかなという気もしますが、不特定多数の方が一気に来てどんどん止められると、営業上、支障が出るということも考えられるので、その辺をどのようにルール決めをするのか、民間のお力もお借りできるかどうかを含めて検討したいと思います。

八国山保育園は近所のうどん屋さんが昼間しかやっていないので、お迎え用に朝晩は駐車場を解放している。民間企業の営業所とかも近くにあるのでいいかもしれない。

(会場より)



◎ 市長 ◎

確かに民間企業の営業所だったら貸してくれそうな感じはしないでもないので、わかりました。ありがとうございます。

◎ 汐見先生 ◎

お店もたくさん車が停まっていると流行っているというふうに思われるかもしれませんが、その辺は「この時間帯だけでも」というような交渉をして、市からも園長からも「親の要望が強いから」ということで交渉してみてください。

◎ 子ども育成課より ◎

各施設とも、営業上支障があることなどから、駐車場をお貸しすることは困難との回答をいただきました。

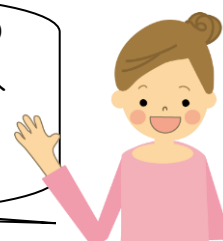
なお、混雑時については、職員が交通整理を行うなどの対応を実施いたしますので、ご理解・ご協力をお願いいたします。

◎ 庶務課より ◎

学校の駐車場を利用するという点については、生徒の通学時間帯との重複による交通事故の危険性や、不特定多数の方が出入りすることによる安全管理上の問題があるため、現状では厳しいものと考えております。

◆インフルエンザの予防接種に費用支援を

インフルエンザの予防接種が1回3000円で子どもが2回打つと6000円でちょっと高いと他のママと話したことがあって、お子さんが2人とか3人とか多いご家庭だとさらに負担も多くて大変だという話を聞いたことがある。予防接種代を少しでも安くできないのか。
(久米川町 Mさん)



◎ 市長 ◎

インフルエンザの予防にはお子さん等には予防接種がかなり有効だというふうに聞いていますので、市としてもできるだけ実施をしていただけるようにしていきたいと思っています。金額の問題というのがネックになるのは事実なんですけど、正直に申し上げて市のほうもいろいろやらなければならないことが他にもたくさんあって、今の段階では市の中で料金を見直すということは議論がされていないところがあります。実態としてどうなのかももう少し整理をさせていただいて、今後の課題として今日は受け止めさせていただければと思っています。

◎ 汐見先生 ◎

ご存知だと思いますけれども、インフルエンザの予防接種は効果がないのではないかという説や、今、市長さんがおっしゃったように子どもが小さい時にはそれなりの効果があるのではないかという説もあって、自治体によっては特にやっていないところもありまして、判断が難しいんです。

前橋調査というのがありまして、以前、前橋市で予防接種を受けた子どもと受けていない子どものインフルエンザに罹る率を調査したら全く同じだったというデータがあって、効果がないという説が一時期広まったんですね。ただ、子どもが小さい時には効果があるのではないかという説もあって、市として「これが大事だから」ということでやるだけの根拠がまだないんだと思います。だからその辺が曖昧になっているということです。

ただ、子どもの病気について、もしインフルエンザの予防接種が必要で高ければ、そういうことをまとめて市に意見を出して検討していただくというようなことはやっていただきたいと思います。

市としてもまだそこまで十分に検討していないということでした。

◎ 子育て支援課より ◎

現在、子どものインフルエンザの予防接種は、任意の予防接種として行われており、各医療機関で接種費用が異なる状況です。

インフルエンザの予防接種は、年によって流行するウイルス型が異なることから毎年の接種が必要なこと、予防効果が概ね20～50%と限定的とされています。

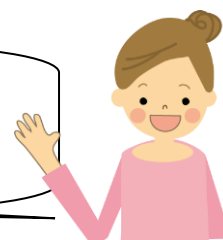
このことから、効果的なワクチンや実施方法が整理される必要があるものと考えます。

現状としましては、対象者が非常に多いことや、毎年接種が必要なワクチンであることから、実施に向けては課題が多いことをご理解いただければと思います。

◆認証保育所に通わせている家庭への補助の充実を

4月から認証保育所に入るが、他の市町村に比べて東村山の補助金が少ない。
プラス2000円～3000円でもいいので、もう少しアップできないか。

(富士見町 Wさん)



◎ 市長 ◎

ご案内のように今年の4月から『子ども・子育て支援新制度』が導入されて、小規模保育等も今は認可保育園ではないのが認可保育園と同等の扱いになるのですが、国の制度上、認証保育園は小規模保育にもならないし認可保育園にもカウントされないということで、都の制度なので中途半端になってしまうんですね。

新制度では、小規模保育等の地域型保育事業の保育料については認可保育園と同一になる予定ですが、認証保育所は新制度外の施設となるため保育料については従前どおりとなるので、基礎自治体としては今後、東京都がどういうふうにするかということに注目しているところです。それに併せて、市としても認証保育園に対してどういう支援、あるいは保護者の方の負担軽減みたいなことを考えていくか。

市も認可外に通われているお子さんについては一人あたり5000円の補助を出しているのですが、お金のいっぱいある23区のほうはもっと補助金が出ていて、財政力で差が出ているというのは我々も承知しているのですが、予算は全体の中で決めさせていただくことになるので、新しい制度に移行したあとに東京都が認証をどう考えるかによって市もどういう対応をしていくのか、新制度に移行した以降の状況を見ながら判断させていただきたいと思っています。

◎ 汐見先生 ◎

今、おっしゃっていただいたように、4月から制度が変わるんですね。20人未満の小さな小規模保育園も条件さえ整えば認可されて、国からも都からもそれから東村山からもお金が出るようになりますので、その点では従来より待機児問題はある程度解消しやすくなっているのですが、認証保育所というのはその条件に合っていないんですね。場合によっては30人であったり、小規模は0～2歳だけなんですけれども4歳・5歳もいたりで中途半端になっちゃうんですね。それで新制度になった時に浮いてしまう認証保育所を東京都はどう扱うのか、というあたりはこれからいろいろアイデアを出してくると思います。その場合に保育料に差があると利用しなくなってしまいますから、恐らく何らかの手を打ってくるだろうと思っています。

その辺は情報をいろいろ集めたりして、できるだけ私たちの利益に合う方向にいろいろ声を上げて
いていただきたいと思います。

◎ 子ども育成課より ◎

認証保育所等の認可外保育施設にお子さんを通わせている保護者の負担軽減を図るため、平成26
年4月から補助額を月額5000円（従来3000円）に増額させていただきました。

平成27年4月から子ども・子育て支援新制度が開始され、認可外保育施設の一部が、新制度の地
域型保育事業や保育所（都道府県認可）に移行する予定です。地域型保育事業の保育料は、基本的に
保育所と同一になる予定です。

なお、東京都の制度である認証保育所については、平成27年度以降も継続されることになってお
りますので、本市としても引き続き認証保育所及び保護者を支援していきます。



【まとめ】

◎ 汐見先生 ◎

私も今日、始めて参加させていただいて、皆さんにお願いがあるんですけど、今、全国のいろいろなところで新しいまちづくりが始まっています。「へえ、面白いことをやっているな」「すごいな」というところはやっぱり規模が小さいところなんですね。大きいところでやっていくのは大変なんですね。だから、東村山が本当に子育てにやさしくて皆が住みやすいまちになっていくためには、「市全体でこうやっていこう」というよりは、まず「私が住んでいるところをこうしよう」というふうにして、それぞれが皆でそれを競い合うようになっていかないと難しいんじゃないかということと、それからそうならばなるほど「行政に何とかやってちょうだい」というだけじゃ済まないですよ。まちづくりでうまくいっているところは、行政に頼らないで自分たちでやろうとしているところですね。そこを行政が応援してくれますね。

こういうことをやりながら、同時に市民として「私たちはこういうことをやれるんじゃないか」というアイデアをどんどんつくっていくということを併せてやっていく、そういう機会にして欲しいな、と改めて思いました。では市長、最後に一言。

◎ 市長 ◎

今日はありがとうございました。「まだしゃべり足りない」という方、あるいは「大勢の前では言えないけど、ぜひ市長には聞いて欲しい」という話があれば、まだ汐見先生の子育て相談の時にも同席させていただきますので、ぜひ何か言っていただけるとありがたいというふうに思います。

先ほど冒頭、汐見先生におっしゃっていただきました『壁面ツイッター』で「これからも東村山に住み続けたい」という方が40人、「NO」と答えた方が3人ということで、かなりの方に「このまま東村山市に住み続けたい」と言っていただいて、本当に私は嬉しくありがたく思っています。

実は昨年、中学2年生に『14歳のアンケート』というのをやったのですが、「大人になってもこのまま東村山に住み続けたいか」という設問で「そのまま住み続けたい」と答えてくれた中学生は全体の25%しかいませんでした。40%の中学2年生は将来、東村山以外のまちに住みたいという回答で、私は非常にかっかりしまして、子どもたちに「これから大人になってもこのまちで住み続けたいな」と思ってもらえるようにするには、乳幼児の時から多くの地域の人、そして我々行政が皆を見守って、「このまちで皆で成長していこうね」という雰囲気をつくっていくということがすごく大事じゃないかなというふうに思っています。

なかなか財政が厳しいまちですけれども「子育てするなら東村山」ということを目標に掲げさせていただいて、できるだけ「このまちで子育て、そして子育てすることでより人生が豊かになる」というふうに思ってもらえるようにこれからも努力していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

今日は汐見学長にコーディネーターをしていただいて、大変恐縮しております。先生、本当にありがとうございました。

市民と市長の対話集会
第87回
タウンミーティング記録集

発行 平成27年3月
東村山市役所市民部市民協働課
東京都東村山市本町1丁目2番地3
TEL 042(393)5111
(内線2564・2565)